

BI-1- i -03	機能形態学 I	第 1 学年	前期 必修	1.5 単位
担当者	小林 恒雄			
一般目標 (GIO)	人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<p>【器官系概論】</p> <p>1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。</p> <p>2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。</p> <p>【皮膚】</p> <p>1. 皮膚について概説できる。</p> <p>【感覚器系】</p> <p>1. 感覚器系について概説できる。</p> <p>【神経系】</p> <p>1. 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。</p> <p>2. 中枢神経系について概説できる。</p> <p>【消化器系】</p> <p>1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。</p> <p>2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。</p> <p>【呼吸器系】</p> <p>1. 肺、気管支について概説できる。</p> <p>【循環器系】</p> <p>1. 心臓について概説できる。</p> <p>2. 血管系について概説できる。</p> <p>3. リンパ管系について概説できる。</p> <p>【血圧の調節機構】</p> <p>1. 血圧の調節機構について概説できる。</p> <p>【骨格系・筋肉系】</p> <p>1. 骨、筋肉について概説できる。</p> <p>2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。</p> <p>【泌尿器系】</p> <p>1. 泌尿器系について概説できる。</p> <p>【生殖器系】</p> <p>1. 生殖器系について概説できる。</p> <p>【血液・造血器系】</p> <p>1. 血液・造血器系について概説できる。</p> <p>【血液凝固・線溶系】</p> <p>1. 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。</p> <p>【内分泌系】</p> <p>1. 内分泌系について概説できる。</p>			
受講心得・準備学習等	人体を構成する器官の構造と機能についての知識が無くては、人を対象にする薬の専門家になることは出来ない。機能形態学 I 及び II を学ぶことにより、正常人の各器官の構造と機能を理解し、将来学ぶ疾病の仕組み、疾病の治療に関する基礎的事項を修得する。			
事後学習・復習等	機能形態学の内容は、自身の身体のことでもある。前回の授業や関連した器官臓器について、イメージしながら、復習することを心がける。			
オフィスアワー	授業の日の 17:00~19:00。メールによる質問・相談は随時受け付ける。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式にて行う。	
回	項目	内容	SBOコード
1	器官系概論	人体を構成する器官・組織の構造と機能	c7(1)-③-1・2
2	皮膚	皮膚についての構造と機能	c7(1)-⑥-1
3	感覚器系	眼、耳、鼻などの感覚器について構造と機能	c7(1)-⑬-1
4	神経系	中枢神経系の構成と機能の概要 体性神経・自律神経系の構成と機能の概要	c7(1)-④-1・2
5	消化器系	胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢についての構造と機能。	c7(1)-⑨-1・2
6	呼吸器系	肺、気管支についての構造と機能	c7(1)-⑧-1

7	循環器系	心臓、血管系、リンパ管系の構造と機能	c7(1)-⑦-1~3
8	血圧の調節機構	血圧の調節機構について	c7(2)-⑤-1
9	骨格系・筋肉系	主な骨と関節、骨格筋の名称と筋収縮機構	c7(1)-⑤-1・2
10	泌尿器系	腎臓についての機能と構造	c7(1)-⑩-1
11	生殖器系	精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器についての機能と構造	c7(1)-⑪-1
12	血液・造血器系	骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造	c7(1)-⑭-1
13	血液凝固・線溶系	血液・凝固・線溶系の機構	c7(2)-⑧-1
14	内分泌系	内分泌系について概説できる。	c7(1)-⑫-1

成績評価の方法	受講態度、小テスト、定期試験の成績を総合的に評価する。
成績評価の基準	小テストおよび期末の試験結果の合計点が 60% 以上を合格とする。
教科書	小林恒雄 編「機能形態学Ⅰ」
参考書など	櫻田忍、櫻田司 編「機能形態学」南江堂 坂井建雄、河原克雅 編「人体の正常構造と機能」日本医事新報社

